

平成18年度第10回 東三河ふるさと公園観察会記録

1. 事業名	東三河ふるさと公園 第10回自然観察会
2. 日時	平成19年1月21日(日) 晴れ 09:300~12:30
3. 場所	東三河ふるさと公園 豊川市御油町
4. 参加者	天野、梶野、高橋、中島(国)、中島(芳)、林、原田(文)、間瀬、望月9名 協会 神谷所長、松本
5. 一般参加者	36名(内子供15人)
6. 観察のコンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物の冬越し 動物の冬越しを観察しよう」 厳しい冬を耐えて春を待つ昆虫等の冬越しを観察しよう。 ・生き物は枯葉、草木、土中、朽木など至る所で色々な生き物が冬越ししている。大勢の目で生き物の冬越しを見つけてみよう。
7. 観察行程	<p>09:00: 会員集合 受付、放送その他の庶務は公園管理者が行う。</p> <p>09:30: 観察会開始 神谷公園管理事務所長 挨拶 梶野東三河自然観察会会長挨拶</p> <p>09:40: 昆虫の冬越しについて エノキを食草とするゴマダラチョウについて観察方法の解説 (天野氏の庭と畑の間に植えられているエノキの落ち葉よりゴマダラチョウの幼虫を見ながら解説)</p> <p>09:50: ロウカイガラムシの観察 サザンカに着くロウカイガラムシ、ミノムシの観察</p> <p>10:10: 朽木、枯葉の下で冬越しする生き物を探そう 腐りかけた器の中にコクワガタ、オサムシの幼虫の観察</p> <p>10:20: ウスタビガの繭の抜け殻の観察、テイカカズラの実の観察</p> <p>10:35: 朽木の観察 朽木の中を観察すると黒いところと白いところがある、何故かな</p> <p>10:50: 粘菌についての観察(ムラサキホコリタケの観察)</p> <p>11:20: アカガエルの卵の観察</p> <p>11:45: まとめ 普段通り過ごす場所でも色々な生き物が色々な方法で生活しています。多くの人の目で見るとまた違った自然が見られます。</p> <p>11:50: アンケート</p> <p>12:00: 観察会解散</p> <p>12:00~12:30: 連絡及び反省会</p>
8. 会員及び公園管理者から一言概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度はトンダリ工房を年2回ほど実施したい。 ・ 公園内の樹木の名札については、草本は取り付けをやめて、樹木だけ名札を付けたらどうだろうか、またユズリハ、ヒメズリハ、ミズバイと3種の間違いをしないように。 ・ 来年度のキャッチコピーについて 主テーマ : 自然みつけ 4月: ふるさと公園は花盛り、5月: 新緑ってどんな色、6月: 花に集まる虫たち、7月: 夏に鳴く虫 セミ 8月: 夏に鳴く虫 キギリス 9月: 秋の七草)

9. 次回以降の観察会のテーマー

2月：公園内の石ころ（公園内の石は領家変成岩（硬質砂岩）・・・縦割れする片岩で石英片岩で構成されている。路頭部は風化が激しい。）

3月：早春の生物

10. 確認できた野鳥類

ヒヨドリ、メジロ、コゲラ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ハシボソカラス、ムクドリ、モズ、カケス

11. 冬越しする虫について

虫を見つけるには、まずそれぞれの虫が好む樹木を探す。コナラにはカナブン、カブトムシが多く楠には樟腦を含むため、虫が寄り付かない。

1) ゴマダラチョウについて

エノキを好む、タテハチョウの仲間で、4月ころ産卵し、エノキを食草として成長し、少し大きくなった頃（秋）エノキの枝から幹を伝わり地上の枯葉に降りる。このとき、樹木の北側に下りて葉の下にもぐり冬越しする。

北側に下りることにより、暖かくなったとき、間違えてエノキののぼりまだ葉がない場合や、急に寒くなること

がないように、北側でも暖かくなったときエノキに上るための知恵である。えのきの登ったゴマダラチョウは成長し蛹となり成虫となって産卵し世代を伝えていく。



2) フユシヤクガについて

寒さと乾燥という厳しい冬季に活動する昆虫がフユシヤクガです。コナラ等ナラの仲間の樹木がある所で、夕刻飛んでいる蛾を見たらフユシヤクガと思われます。雌は翅を持たず飛ぶことが出来ません。フェロモン（オスをひきつける臭い）を発生しオスを呼び寄せ交尾して子孫を伝えます。

雌はなかなか見つけることが出来ないが、地上より1、5m程の所に生息する可能性があります。冬はこの虫にとって害敵がいいため、この時期に活動するのです。

3) ナミテントウの集団越冬

厳しい冬を安全に越冬するには数多くの仲間が集団で越冬することは有利なことです。ナミテントウの越冬で天野氏の家で見られたものは、10cm平方程に固まったものが、畳1枚分ほどの広さに集団越冬している例が見られたそうです。

4) コナラの朽木の観察

虫が食べたところは糞として排出するため黒く自然に朽ちたところは白い、このように朽木1本でも色々なこ

とが分かる。何故と試してみよう。

5) カミキリの糞

シイの幹全体にカミキリの食痕

6) ヤママユガ、クスサン、ウスタビガの蛹繭の抜け殻について

7) カマキリの仲間

この地方では

オオカマキリ・・・大きなカマキリで産卵は草が多い

コカマキリ・・・鎌の部分に斑点がある) 卵は小さく木に産みつけられることが多い

ハラビロカマキリ・・・腹が広く大きい

8) オオミノムシ・・・雌は羽がなくみのから出ることはない。成長したオスは糞から飛び出し雌と交尾する。

9) ロウカイガラムシ・・・樹木に付き、栄養分を吸い取る。これが付くと樹木の樹勢が衰える。害虫で6月頃親が見られる。



観察できた虫たち

			
ゴマダラチョウの幼虫	オオミノガ	オサムシの幼虫	コクワガタの幼虫
			
コクワガタの幼虫	ゴミムシの仲間	朽木の中の幼虫	オサムシの仲間の幼虫

12. 植物の不思議について

1) 虫こぶについて

木の「こぶ」は線虫、アブラムシ、蜂等の仕業により出来る。植物の種類と形により、その虫こぶを作った生き物が相違する。逆に言えば、虫こぶに関わった生き物により虫こぶの形に変化がある。

2) 粘菌について

この地方では20種近く（細胞性粘菌を入れると30種ほど）の粘菌を見ることができる。観察したのはムラサキホコリタケでした。

粘菌はアメーバー（動物）のように動いたり、セルロースを構成し植物となったり、植物とも動物ともいえない生き物です。粘菌の研究者として南方熊楠氏が有名である。

3) ノキシノブについて

胞子を作る所と形によりシダの仲間の種類を同定する。

13. アカガエルの卵について

両生類 ニホンアカガエル

オスはメスより若干小さく、肉食性、昼夜行動し、平地の草むらや水田、森の林床等に生息する。平地では一般

に見られる蛙です。水田や河原の水溜りなどに産卵する。らん圃に含まれる卵数は千個を越えることもあるそうです。ふるさとの谷の棚田の一番下の水溜りにアカガエルの卵を見つける。一番早く産卵する蛙で、1箇所のみを確認でした。



14. 見られた花、昆虫等



コウヤボウキの種



リョウブの冬芽



ヤマノイモの種



セイヨウカラシナ



マンリョウ



ナデシコ



セイヨウタンポポ



マルバグミ



オオバヤシャブシの枯れた実



サザンカ



ハナミョウガの実



フユイチゴの実



ミツマタの蕾



アカガエルの産卵

15. 観察会風景写真



所長挨拶



越冬する虫たちの観察風景



落葉の下、朽木の中で虫探し



粘菌の観察風景



水の中でも冬越しする虫がいる



落葉した森



タラ



棚田は綺麗に除草されていた。

備考

- ・ 新年最初の観察会、観察会当日暖かい日でもあり参加者も多く、特に子供の参加者が15名と目立った。これは冬越しする生き物（昆虫等）というキャッチコピーの為かもしれない。
- ・ アカガエルの産卵が見られ、暦の上では大寒といえ春は確実に近づいている感じがした。
- ・ 今年の大寒は暖かい、地球温暖化の影響なのか。